

2016年度(2017年3月期) 決算説明会



大正製薬ホールディングス株式会社
代表取締役社長 上原 明



2016年度通期決算：概要

(億円)

	2015年度	2016年度	前期比増減		予想比*
			増減額	増減率	
売上高	2,901	2,798	-104	-3.6%	-17
セルフメディケーション	1,807	1,800	-7	-0.4%	-19
医薬	1,094	998	-96	-8.8%	+2
営業利益	289	320	+31	+10.7%	+15
経常利益	368	380	+13	+3.4%	+15
親会社株主に帰属する 当期純利益	225	288	+63	+28.1%	+13
1株当たり当期純利益(円)	277.75	360.18	-	-	-

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算

*2017年2月2日時点予想との対比



2016年度通期の概況：SM事業

(億円)

	2016年度 累計	前年同期比 増減		要因
SM事業全体	1,800	-7	-0.4%	
SM国内	1,497	+16	+1.1%	
リポビタンシリーズ	585	-20	-3.3%	市場ダウントレンドの影響
パブロンシリーズ	263	+15	+6.1%	かぜ薬や鼻炎治療薬の伸長
リアップシリーズ	161	-5	-2.9%	前年リニューアルの影響あり
その他	489	+26	+5.6%	通信販売事業の伸長
SM海外	275	-24	-7.9%	

注：金額は億円未満四捨五入
増減は百万円単位で計算

<ご参考：市場の状況>

国内OTC医薬品市場：前年同期比(4～3月)-0.5%
(インテージSDI・SRIデータをもとに当社推計、金額ベース)



2016年度通期

SM国内：主要ブランド売上高

(億円)

	2015年度	2016年度	前期比増減		予想比*
リポビタンシリーズ	605	585	-20	-3.3%	-12
パブロンシリーズ	248	263	+15	+6.1%	+5
リアップシリーズ	165	161	-5	-2.9%	-3
リビタシリーズ	39	38	-1	-2.1%	-1
胃腸薬シリーズ	41	40	-1	-3.0%	-0
ナロンシリーズ	37	34	-3	-8.3%	-1
ヴィックスシリーズ	36	36	+0	+0.7%	-0

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算

*2017年2月2日時点予想との対比



2016年度通期 SM海外：売上高

(億円)

	2015年度	2016年度	前期比増減		予想比*
			絶対値	割合	
SM海外	299	275	-24	-7.9%	+1
ドリンク剤	103	94	-10	-9.5%	-0
OTC医薬品	184	172	-12	-6.7%	+1
アジア	157	151	-5	-3.3%	+0
その他	28	20	-7	-25.8%	+1

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算

*2017年2月2日時点予想との対比



2016年度通期の概況：医薬事業

(億円)

	2016年度 累計	前年同期比 増減		要因
医薬事業	998	-96	-8.8%	
エディロール	226	+28	+13.9%	骨粗鬆症治療薬のベース薬として浸透
ゾシン	155	-118	-43.2%	薬価改定、後発品の影響等を受け減少
ボンビバ	59	+10	+19.9%	静注薬のメリットが認知、浸透
ルセフィ	29	+20	+225.2%	SGLT2阻害剤市場におけるシェアアップ
ロコア	18	+14	+315.2%	長期処方解禁等により処方拡大

注：金額は億円未満四捨五入
増減は百万円単位で計算

<ご参考：市場の状況>

医療用医薬品市場：前期比-3.8%

・抗菌薬市場-13.6% ・ビタミンD3市場+5.6%

・骨粗鬆症及関連疾患用ビスホスホネート市場-3.6% ・SGLT2阻害剤市場+93.6%

(Copyright © 2017 QuintilesIMS.、JPM2015年4月-2017年3月をもとに作成、無断転載禁止)



2016年度通期

医薬事業：主要製品売上高

(億円)

	2015年度	2016年度	前期比増減		予想比*
			増減	増減率	
エディロール	198	226	+28	+13.9%	-1
ゾシン	273	155	-118	-43.2%	+4
クラリス	120	93	-27	-22.3%	-1
ボンビバ	49	59	+10	+19.9%	-1
パルクス	62	54	-9	-13.7%	+1
ジェニナック	43	52	+9	+21.3%	+0
ルセフィ	9	29	+20	+225.2%	+1
ロコア	4	18	+14	+315.2%	+0

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算

*2017年2月2日時点予想との対比



2016年度通期：売上高・利益の増減要因

(前期比増減額)

売上高 (-104億円)	セルフメディケーション事業 (-7億円)	医薬事業 (-96億円)
営業利益 (+31億円)	売上総利益* +14億円 (売上総利益率* 前期60.9% → 当期63.7%)	
	販管費 -17億円	
	(内訳)	
	・研究開発費	-5億円
	・広告宣伝費	+7億円
	・販売促進費	-17億円
	・人件費	-2億円
・その他	+0億円	
営業外損益：持分法投資損失 6億円 (前期比-10億円)		

*返品調整引当金繰入・戻入調整後

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



2017年度：通期業績予想

(億円)

	2016年度 実績	2017年度 予想	前期比増減	
売上高	2,798	2,790	-8	-0.3%
セルフメディケーション	1,800	1,813	+13	+0.7%
医薬	998	977	-21	-2.1%
営業利益	320	285	-35	-10.8%
経常利益	380	345	-35	-9.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	288	240	-48	-16.6%
1株当たり当期純利益(円)	360.18	300.38	-	-

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



2017年度予想

SM国内：主要ブランド売上高

(億円)

	2016年度 実績	2017年度 予想	前期比増減	
リポビタンシリーズ	585	568	-17	-2.9%
パブロンシリーズ	263	269	+6	+2.2%
リアップシリーズ	161	159	-2	-1.0%
リビタシリーズ	38	36	-2	-5.6%
胃腸薬シリーズ	40	39	-1	-2.3%
ナロンシリーズ	34	35	+1	+4.1%
ヴィックスシリーズ	36	42	+5	+15.0%

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



2017年度予想 SM海外：売上高

(億円)

	2016年度 実績	2017年度 予想	前期比増減	
SM海外	275	295	+19	+7.1%
ドリンク剤	94	99	+5	+5.6%
OTC医薬品等	172	183	+11	+6.6%
アジア	151	163	+12	+7.7%
その他	20	20	-0	-1.4%

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



2017年度予想

医薬事業：主要製品売上高

(億円)

	2016年度 実績	2017年度 予想	前期比増減	
			増減額	増減率
エディロール	226	250	+24	+10.6%
ゾシン	155	95	-60	-38.8%
クラリス	93	85	-8	-8.8%
ボンビバ	59	71	+12	+20.1%
パルクス	54	48	-6	-10.4%
ジェニナック	52	45	-7	-13.5%
ルセフィ	29	48	+19	+67.1%
ロコア	18	36	+18	+98.5%

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



2017年度予想：売上高・利益の増減要因

(前期比増減額)

売上高 (-8億円)	セルフメディケーション事業 (+13億円)	医薬事業 (-21億円)
営業利益 (-35億円)	売上総利益* +27億円 (売上総利益率* 前期63.7% → 当期64.8%)	
	販管費 +61億円	
	(内訳)	
	・研究開発費	+27億円
	・広告宣伝費	+11億円
	・販売促進費	+10億円
	・人件費	+5億円
・その他	+8億円	
営業外損益：持分法投資損失 10億円(前期比 -4億円)		

*返品調整引当金繰入・戻入調整後

金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



医療用医薬品：開発品の状況

- 大正製薬開発品：2016年度第3四半期決算発表時（2017年2月2日）からの変更点

（2017年5月15日現在）

国内：TS-142（経口）	
予定適応症	不眠症
変更点	パイプライン（フェーズ2）に追加
海外：TS-121（経口）	
予定適応症	うつ病
変更点	フェーズ1 ⇒ フェーズ2



医療用医薬品：新薬パイプライン(1)

大正製薬開発品：フェーズ2以降

(2017年5月15日現在)

	特長他 予定適応症	開発形態	国内／海外
フェーズ2			
TS-091 (経口)	中枢性過眠症	自社	国内
TS-152* (注射)	抗TNF α 抗体 関節リウマチ	自社	国内
TS-141 (経口)	小児 注意欠如・多動性障害(AD/HD)	自社	国内
TS-133 (外用)	脱毛症	自社	国内
TS-142 (経口)	不眠症	自社	国内
TS-121 (経口)	うつ病	自社	海外

*TS-152：一般名：Ozoralizumab



医療用医薬品：新薬パイプライン(2)

大正製薬開発品：フェーズ1

(2017年5月15日現在)

	対象疾患	自社／導入	国内／海外
フェーズ1			
TS-071* (経口)	2型糖尿病	自社	海外
TS-091 (経口)	中枢性過眠症	自社	海外
TS-134 (経口)	統合失調症	自社	海外

*TS-071：一般名：ルセオグリフロジン水和物、国内販売名：ルセフィ



大正製薬グループの方向性

- 「セルフメディケーション事業」と「医薬事業」をバランスよく成長させながら、企業価値の最大化を目指す

その実現に向けて

- セルフメディケーション事業
国内：需要の創造と強いブランド作りのための活動強化
海外：進出している地域におけるプレゼンスの向上
- 医薬事業
新薬の売上最大化および継続的な新薬上市に向けた取り組みの強化



今後の取り組み

- セルフメディケーション事業(国内)

需要を創造し、強いブランドを作る

- ✓ 生活者の健康意識の高まりやニーズの変化に対応する商品の開発と育成に努める
- ✓ 生活者との接点の拡大と共感の獲得を目指した活動を実践する



今後の取り組み

- セルフメディケーション事業(海外)

持続的な成長の実現へ向け、
進出各国での上位ポジションの獲得を目指す

✓ 東南アジアを中心とした成長市場における
事業展開の強化

◆ 新たなユーザーの開発

⇒ 主カブランドの周辺領域における新製品の開発 等

◆ 中長期的な成長基盤獲得へ向けての取り組み

⇒ 新たな国、OTC以外の領域への展開等、M&Aも含め検討



今後の取り組み

- 医薬事業

新薬の売上最大化および継続的な新薬上市に向けた取り組みの強化

- ✓ ルセフィおよびロコア等の新薬売上最大化を図る
- ✓ 開発化合物の早期承認取得を目指すとともに、導入によるパイプラインの強化を図る
- ✓ 外部研究機関との連携を強化し、継続的なオリジナル開発化合物の創出を図る



株主還元について

- 2016年度配当：
 - 1株当たり110円(配当性向:30.5%)
(中間50円、期末60円)
- 2017年度配当(予想)：
 - 1株当たり110円(配当性向:36.6%)
(中間50円、期末60円)
- 配当、自社株買いの方針は変更なし
 - 配当性向30%(特別損益を除く)を目途、持続的な安定配当の実施を目指す
 - 特段の事情がない限り、1株当たり100円の年間配当を維持する